

平成30年度 第3回市政モニターアンケート集計結果

住宅用火災警報器と救急車利用に関するアンケート

①「住宅用火災警報器について」

高島市では住宅用火災警報器の設置普及をはじめ、これを含む住宅用防災機器等の普及促進を図ることなど、住宅火災による被害の軽減に向けて取り組んでおり、調査結果を今後の活動に反映させるため、住宅用火災警報器に関するアンケートを実施しました。

②「救急車利用について」

平成29年度における高島市消防本部管内の救急出動件数は2,977件、搬送人員が2,810人となっていますが、そのうちの約6割が軽症で中には緊急性に乏しいと考えられる利用者も見受けられます。このことから、市民のみなさんの生命を預かる救急車の適正利用に向けた取り組みに反映させるため、救急車利用に関するアンケートを実施しました。

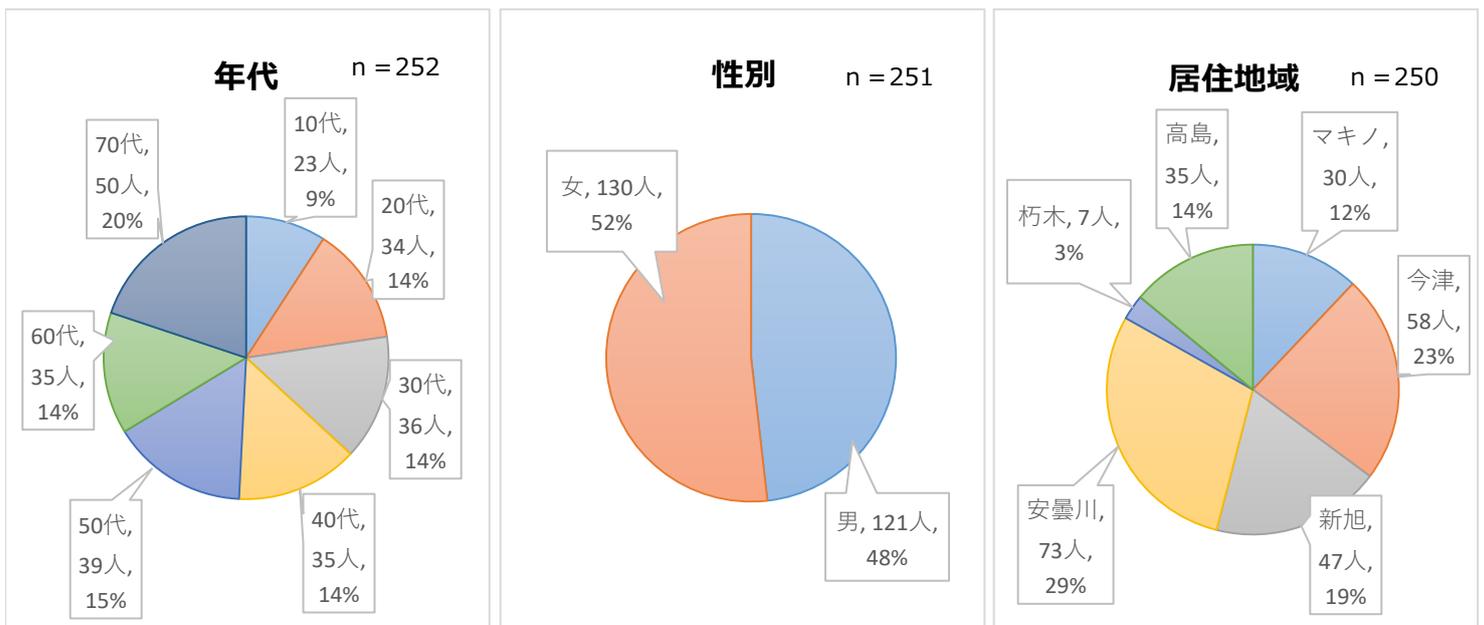
【実施期間】 平成30年12月3日（月）～平成30年12月17日（月）

【モニター登録者数】 292人

【回答者数】 253人（うち無記名2人）

【回答率】 86.6% ※設問により無回答あり

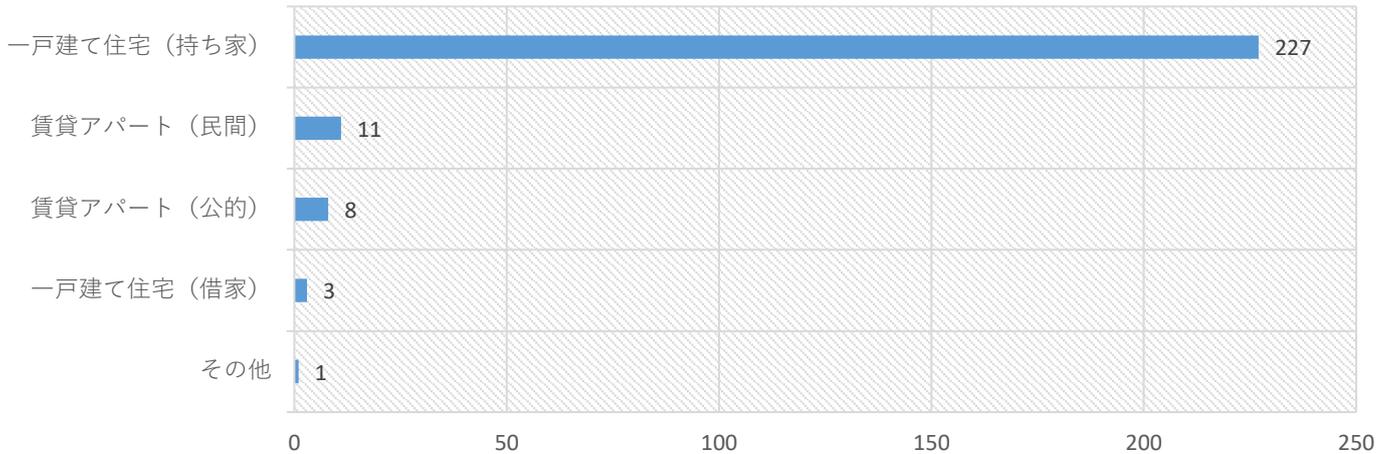
回答者の属性



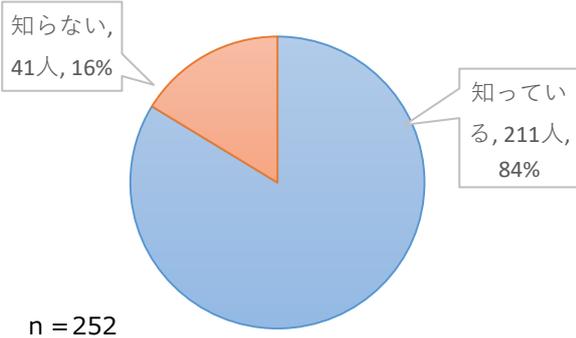
◆住宅用火災警報器について

Q1.お住いの住宅の形態は何ですか。（単一回答）

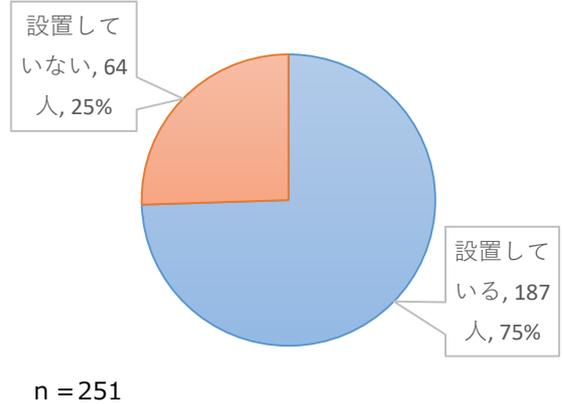
n = 250



Q2.高島市火災予防条例で「住宅用火災警報器」を設置しなければならないことを知っていますか。（単一回答）



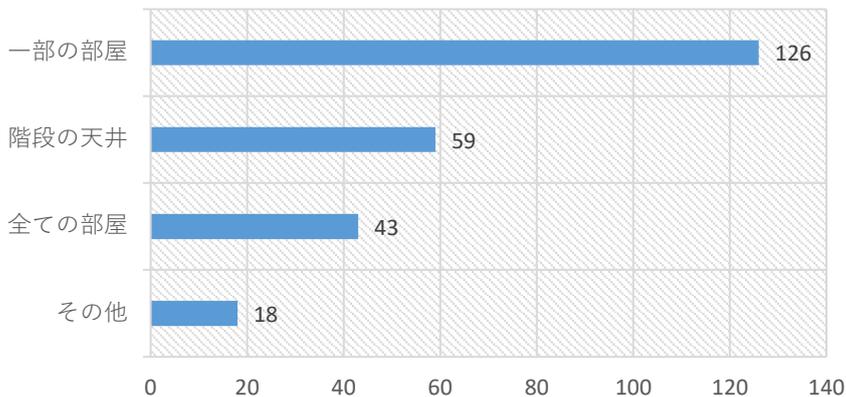
Q3.「住宅用火災警報器」を設置していますか。（単一回答）



Q3で「設置している」と回答された方



Q4.「住宅用火災警報器」をご自宅のどこに取り付けていますか。（複数回答可）

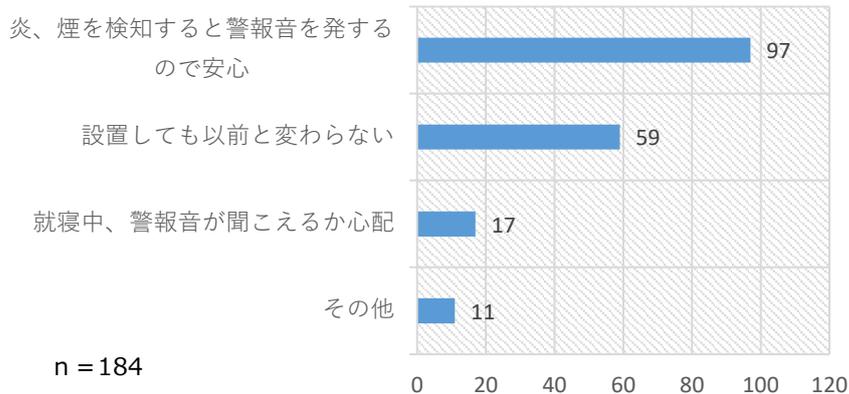


【その他】

※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

- ・ 台所
- ・ 寝室
- ・ 場所を把握していない
- ・ 2階の各部屋
- ・ 倉庫

Q5. 「住宅用火災警報器」を設置した感想を教えてください。（単一回答）

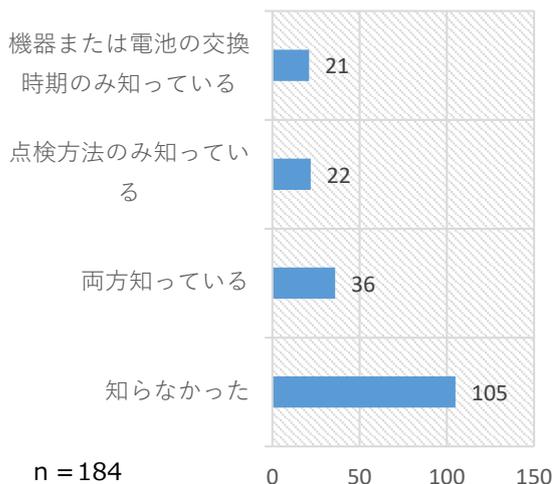


【その他】

※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

- ・有効期限がわかりづらい。
- ・台所で調理中に煙で警報器が鳴って困惑した。
- ・鳴ったことがないのでわからない。
- ・時々、消防署による点検を実施してほしい。
- ・壊れるとうるさい。
- ・点検時期を忘れてしまう。

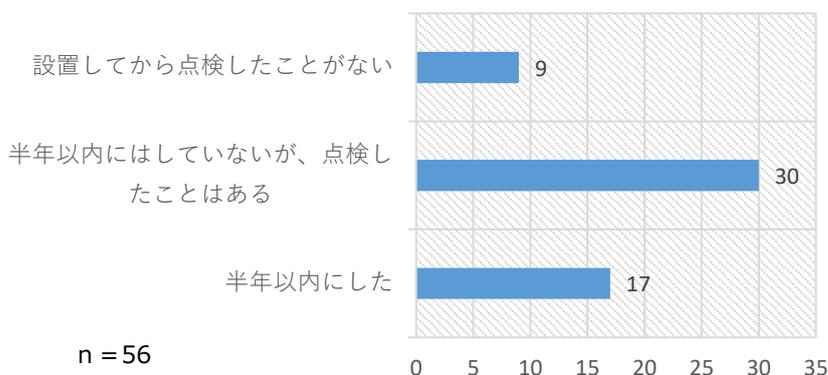
Q6. 「住宅用火災警報器」の点検方法、交換時期を知っていますか。（単一回答）



Q6で「両方知っている」または「点検方法のみ知っている」と回答された方



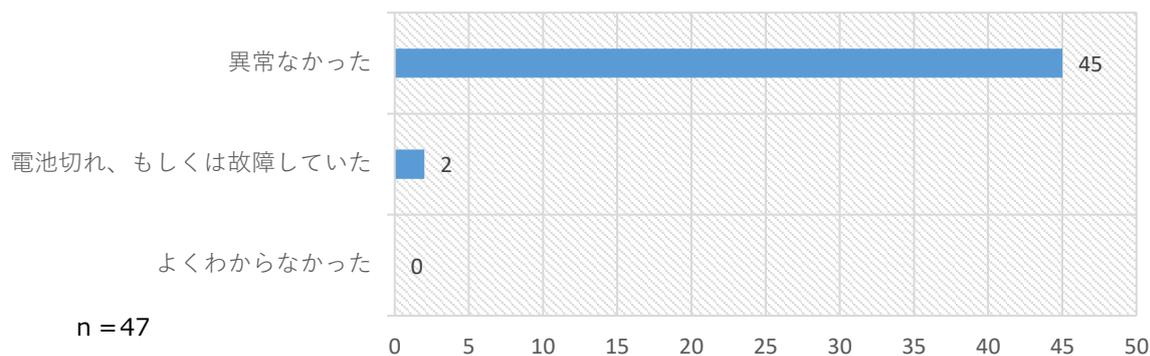
Q7. 「住宅用火災警報器」の点検をされていますか。（単一回答）



Q7で「半年以内に点検した」または「半年以内にはしていないが、点検したことはある」と回答された方



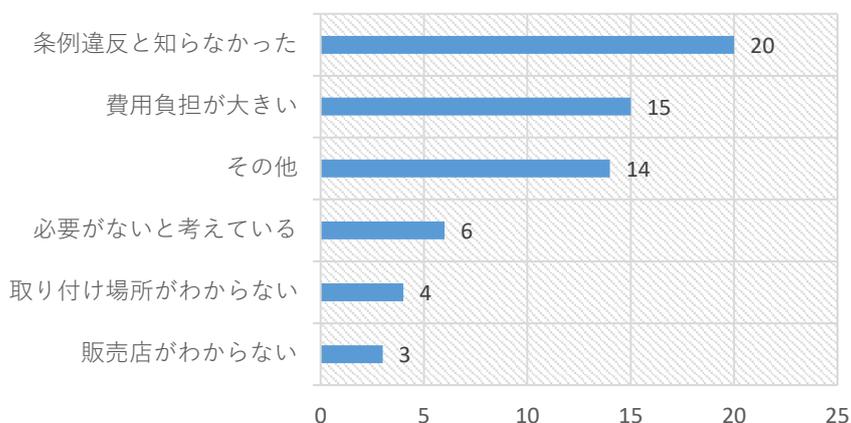
Q8. 「住宅用火災警報器」を点検した結果はどうでしたか。（単一回答）



Q3で「設置していない」と回答された方

Q9.「住宅用火災警報器」を設置していない理由は何ですか。（単一回答）

n = 62

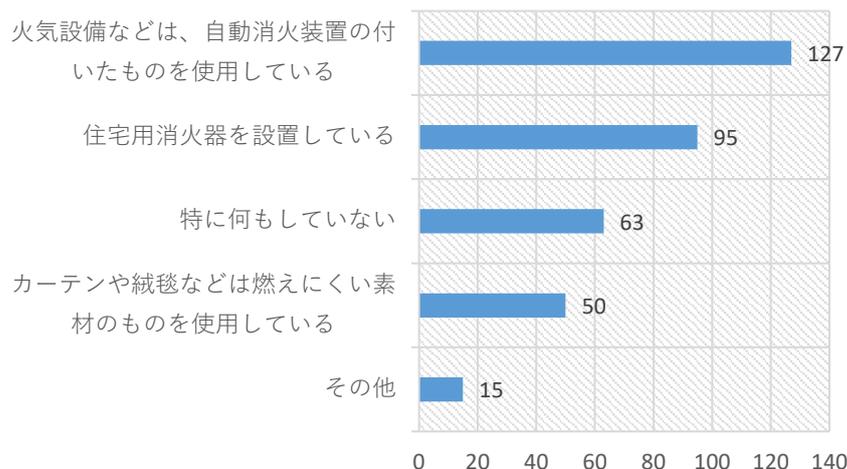


【その他】

※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

- ・設置方法を知らないから。
- ・取り付けが面倒。
- ・条例前からそのまま。
- ・住宅メーカーが必要ないと判断したから。
- ・設置を忘れていた。
- ・条例があることを初めて知った。
- ・調理ができない。
- ・特に理由はない。

Q10.「住宅用火災警報器」の他に住宅火災対策を行っていますか。（複数回答可）



【その他】

※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

- ・オール電化にしている。
- ・消火器を2か所設置している。
- ・アパートなので消火器は通路に設置されている。
- ・ガスコンロ、灯油ストーブは使用しない。

Q11.火災予防の取り組み全般について、ご意見がありましたらご記入ください。（自由記述）

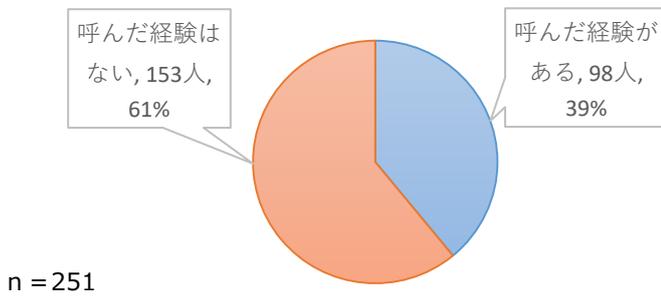
※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

- ・各地域で自主出前講座を開催し、住宅火災対策の事例発表や推進活動をすべきでは？
- ・「住宅用火災警報器」の一斉点検を期間を決めて定期的に呼びかける。
- ・家庭内での出火原因の実演、あるいはビデオを見せて防災意識を高める。
- ・消火器のない家に無料提供する。
- ・焚火等は禁止という啓発運動はこれからも続けてほしい。
- ・住宅用火災警報器の設置については補助金制度がほしい。
- ・注意喚起の標語や川柳を募集し、市広報誌へ毎月掲載する。
- ・オール電化にしたら補助が出るなど。
- ・火災警報器の設置促進PR不足だと思う。

- ・火災時の防災行政無線の音声が大きすぎる。
- ・住宅用火災警報器を設置しなければならないことをもっと周知する（取扱い方法、購入方法、種類など）。
- ・消防団員数やどの程度の頻度で活躍しているのか気になる。特に人里離れた場所での状態はどうか。
- ・地域や職場などを通じて定期的に火災予防の訓練や周知をおねがいします！
- ・防災行政無線を使って、毎月火災予防の日を決めて火災予防の啓発放送をすると思う。
- ・特に高齢者への啓発が必要。
- ・消防署や市職員による適宜の点検があるといい。

◆救急車利用について

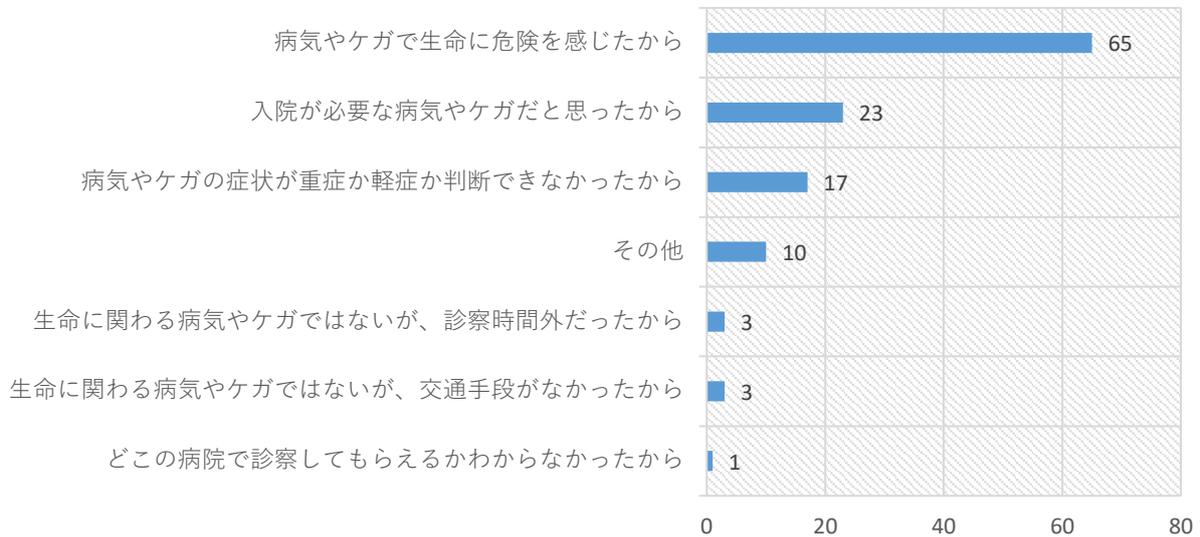
Q12.119番通報して救急車を呼んだことがありますか。（単一回答）



Q12で「呼んだ経験がある」と回答された方



Q13.救急車を呼んだ理由は何ですか。（複数選択可）

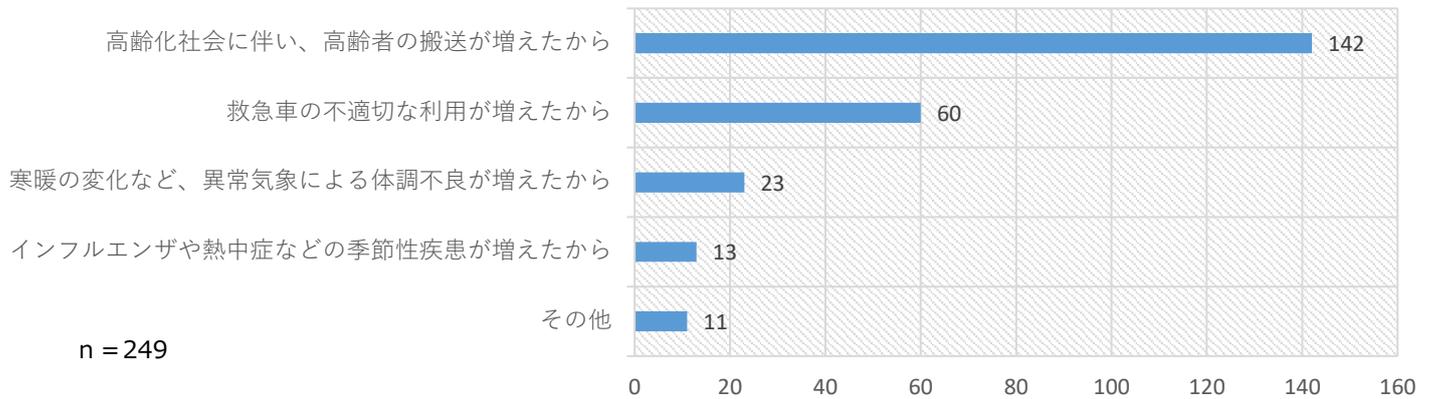


【その他】

※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

- ・事故の第一発見者であったから。
- ・ケガしている人がいたから。
- ・身体の不自由な高齢者のケガだったので、家族では搬送が無理だったから。
- ・交通事故に遭った。
- ・自宅で子どもが生まれたため。

**Q14. 昨年、高島市消防本部管内の救急搬送出動件数が過去最高となりました。
出動件数増加の一番の要因は何だと思いますか。（単一回答）**

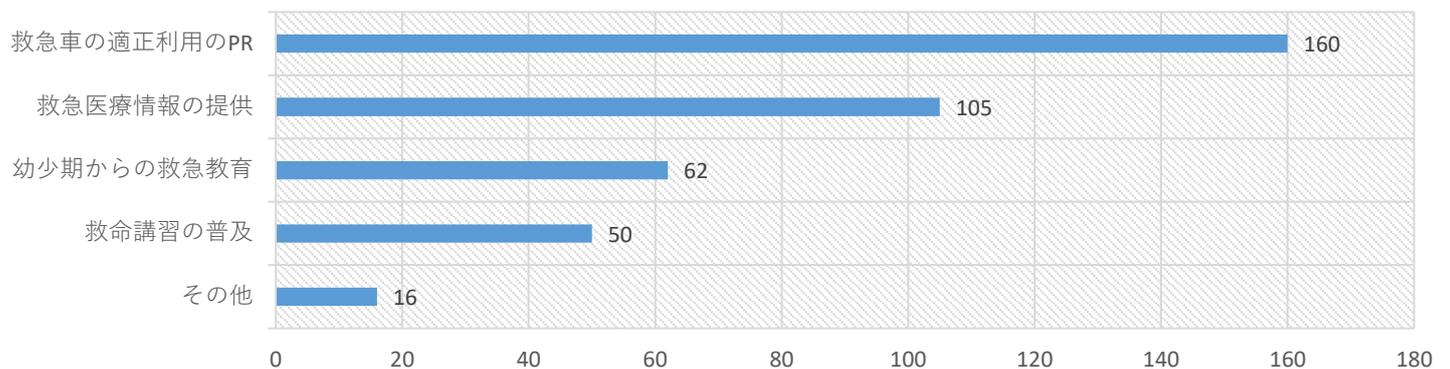


【その他】

※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

- ・高島病院の予約が取りにくいから。また、救急車利用だと診察順が優先になるから。
- ・交通の便も悪いので、足がわりに呼んでしまう場合も多いと思う。
- ・高齢化で自分で病院に行けないから。救急車を呼ぶことが適切なのか判断が正確に行えないから。
- ・傷・病気に対する各個人の対処方法の知識不足や医療体制が変化したから。
- ・単身世帯の増加。

**Q15. 救急出動件数の増加を抑えるために効果があると思われる取り組みは何ですか。
（複数回答可）**



【その他】

※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

- ・近所や身内間で病院へ連れていく人間関係を築く。
- ・救急車の有料化。
- ・医療と交通の便の充実。
- ・出動にかかる資金の公表。特に身近な予算との対比があればなおよい。
- ・実際にあった不適正利用の例を紹介する。
- ・健康増進の活動を実施する。

Q16.救急車の利用に関することについてご意見がありましたらご記入ください。（自由記述）

※同様の内容等は要約して記載しています。ご了承ください。

〈救急車利用に関すること〉

- ・不適切な救急車の利用を減らすことはできないのか。
- ・ただの移動手段として利用しないでほしい。
- ・頼れる家族がない世帯は救急車を呼ぶしかないのが現状だと思う。隣近所で助け合えるまちづくりが必要。
- ・近所に救急車が来るとびっくりするので、住宅内ではサイレンを鳴らさないようにしてほしい。
- ・症状により異なり、利用の判断が非常に難しい。
- ・高齢化が進み、自分で病院に行けない、家族を連れて行けない状況でついつい救急車を利用という結果になると思います。
- ・救急出動件数の約6割が軽症ということに驚いている。家族が急に苦しみだしどうしようもない場合、電話するかもしれない。
- ・急病やケガの場合、地域の救急医療対応（特に夜間）に限られた病院しかないように感じる。
行くまでの交通の確保やどこへ行けば診てもらえるかわからないと救急車を呼んでしまう。

〈制度・取り組みに関すること〉

- ・地域へのお出前講座を増やす。
- ・緊急時対応マニュアルのようなものを各家庭に置く。
- ・救急車利用については一部有料とすべき（例：病院側あるいは救急隊員が明らかに軽症であると判断した時など）。
- ・救急車の適正利用のPRが必要。各集落へ担当者が出向き、講習を行うなど。
- ・需要に対して供給が不足しているのならば、人の命に関わることなので予算を確保し対応する。
- ・救急車を呼ぶべきか判断に迷ったときに電話相談できると安心。
- ・小学生からのCPR教育。
- ・どういった時に救急車を利用すべきか指導、PRする。ポスターを市内各所に貼るなど。
- ・救急医療情報の提供。医療機関との連携。
- ・出動件数と併せて使われた税金の額も公表して注意喚起する。
- ・診察時間外（深夜・早朝）の救急の際、消防（119）→診てもらえる病院に連絡→自家用車で受診する。
- ・交通の不便さは交通手段を持たない高齢者にとっては大問題。救急車の活動件数が多い理由の一つだと思う。
- ・個人情報に抵触しない範囲で、救急車の利用があった時に自治会などに連絡するようにする。
- ・AEDの設置場所が分かるよう周知する。

〈利用された方の感想〉

- ・救急車に同乗して病院に着いた時、救急隊員の方がドアを開けた事にびっくりした。
病院のスタッフが待っていると思っていた。
- ・自宅で脳梗塞を発症し救急車のお世話になりましたが、適切な処置と搬送のおかげで一命をとりとめ現在に至っています。
- ・2度救急車を利用させてもらったが、丁寧な対応、わかりやすい言葉がけに感謝しています。
- ・救急車を呼んで10分ほどで到着していただき、早くの対応に感謝です。